大人女子が囲碁始めました 中

基本ルール

相手の石取り陣地争う

津軽地方在住の女性が参加した入門教室、通称「大人女子の囲碁教室」は10月下旬に2回、弘前市の碁会所「山道町囲碁クラブ」で、各回2時間のスケジュールで行われた。

企画した同クラブ店長の秋元秀樹さん(38)によれば、囲碁を知らない人は「そもそも囲碁が楽しいものかどうかすら分からない」という。

参加者にモニターになってもらい、囲碁の魅力を口コミやインターネットなどを通じて伝えてもらうことで「知り合いが楽しく打っているのを聞いたり見たりした同年代に、関心を持ってもらえるのでないか」(秋元さん)。そんな思いから生まれた企画に、古川こんゆ二段と夫の元アマ六段が賛同した。

冒頭、こんゆ二段は「難しそう」というイメージに対し、「囲碁のルールは実はシンプル。シンプル過ぎるために変化が多く、逆に難しいと思ってしまうかも。そのイメージを払しょくしていけたら」と話した。

参加者はほかに「形勢の良し悪しが見ても分からない」「ゲームの終わりが分からない」というイメージも抱いていた。将棋やチェスは駒の動かし方にルールがあり、盤を見れば優劣がだいたい見当がつき、王(キング)を取れば勝つ。

一方、囲碁は「地」と呼ばれる石で囲った場所の大きさを競う「陣取り合戦」。陣地が決まったら終局となる。初心者はこれを理解するのが難しく、同じ白黒のボードゲームでもオセロ風ゲームとは全く違う。

こんゆ二段は、縦横7本の線がある「7路盤」を使い、基本のルールをいくつか説明=写真参考=。他に碁石の持ち方や「囲碁は打つ、将棋は指す」という言い回しの違いなども教えてくれた。

その後、古川夫妻を相手に石を取り合うゲームをへて、参加者同士が7路盤で対局。

石を取ったり、取られたりすることを考えつつ、陣地が増えるように打つのは、7路盤といえども見た目以上に頭を使い、打つ場所に迷う。感覚にまかせ、教わった通り人さし指と中指で石をはさんで打ってみる。「パシッ」と響いた音だけは上級者っぽい。

(工藤瑠美子)

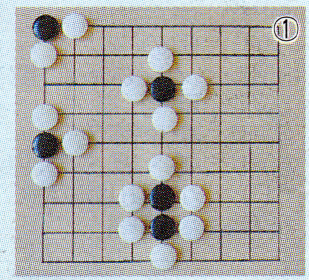
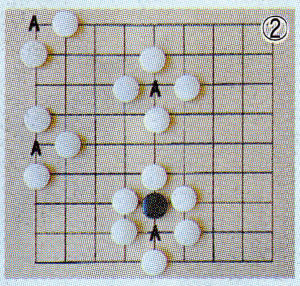
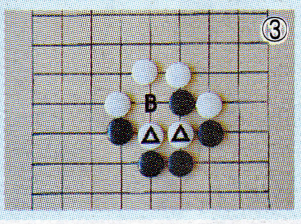
石を取る練習中の(左から右奥へ)斎藤さんと高木さん、竹内さん。自分の陣地を増やすためには相手の石を取るのも戦法の一つ

囲碁の基本ルール

①石は黒から交互に線と線が交差するところに置く

②陣地は交差点の数を数え「目(もく)」と呼ぶ

③相手の石の道(石から出ている線)をすべてふさげば取れる。写真①の黒石はすべて取られる状態。次の一手で取れる状態を「アタリ」と呼ぶ



④石を打てないところがある。写真②のAに黒石は打てない。ただし相手の石を取れる時は打てる。白石(△)が取れるので写真③のBに黒は打てる